

日本学術会議化学委員会分析化学分科会（第 25 期・第 7 回）議事録

日時：令和 3 年 11 月 11 日（金）10:00-11:30

場所：日本学術会議 6 階 6-A(1)会議室およびオンライン併用（Zoom）

出席者（敬称略）：岡本裕巳（オンライン）、玉田 薫（オンライン）、谷口 功（会議室）、加藤昌子（オンライン）、尾嶋正治（会議室）、斎藤公児（会議室）、佐藤 縁（会議室）、竹内孝江（オンライン）、藤本俊幸（会議室）、宮崎あかね（オンライン）

欠席者： 栄長泰明

記録：佐藤 縁

配布資料：

資料番号なし 第 25 期化学委員会第 7 回分析化学分科会次第

参考資料 前回議事録（第 6 回分析化学分科会議事録）

議事内容

(1) 本日開催の学術フォーラム「カーボンニュートラル社会を支える最先端分析技術」について運営等確認

谷口委員長より、本日開催される学術フォーラムについて関連する話と、進め方について確認がなされた：RITE の秋元先生より基調講演、第一部はエネルギーの関係の話。第二部は環境の方（対象物の検知、把握の件）に話題を広げる。最後にパネルディスカッションの話で議論する。茶谷化学委員長にご挨拶いただき締め括りとする。

分科会参加の委員、会員から、本日のフォーラムについての期待や、寄与の仕方などについて一言ずつ意見を述べた。また進行方法についての最終確認も行われた。

(2) フォーラムの成果広報について

谷口委員長：学術フォーラムの成果報告の仕方についてはこれから具体的に検討する。非常に感心の高いところなので、学会の学会誌や、その他メディアなども検討したい。日本学術会議の学術の動向、分析機器工業会などでの発信も可能性を持たせたい。

岡本会員：12 月 24 日にも、学術会議でカーボンニュートラル（CN）関連の講演を行うので、分析化学分科会の活動もいれながら、全体で考えていくのがよさそうである。

谷口委員長：CN 連絡会との議論や調整も引き続き必要となるであろう。課題テーマとして大きいものなので、みなさんと相談しながら慎重に進めることとしたい。

以上